

郷土の財産「檀林」を守ろう！！

6つのグループが集結、竹林の整備



1月12日（土）小雨が降る寒い中、史跡飯高檀林跡を守る会と城西国際大学・匝瑳高等学校の生徒さん、市民協働まちづくりの会、市役所職員のボランティア38名により檀林西側急傾斜に伐採された孟宗竹の撤去を中心に作業が行われた。

史跡飯高檀林跡を守る会の皆さんは、檀林の環境保全を目的として、昭和52年2月に設立された団体です。



史跡飯高檀林環境保全事業をボランティアで！！

まだ、正月気分が残る、1月12日早朝、寒さの中総勢38名のボランティアの方々に、飯高寺西側斜面に昨年中に伐採して横たわったままになっていた、孟宗竹の片付け作業をやっていただきました。危険を伴う急傾斜地の作業にもかかわらず、大学生・高校生・まちづくりの会・市役所職員の方々、檀林跡を守る会の皆さんが参加してくれました。

そして、地元の保健推進員の皆さんには、昼食の炊き出しをお願いして、あいにくの悪天候でありましたが、参加者の皆さんがおにぎりをほおぼり、熱い豚汁をすすりながら談笑する時間ももてました。

午後は、冷たい雨が降ってきて予定より少し早めに作業を切り上げて解散しましたが、仕事は、皆さんが頑張ってくれて予想外にはかどりました。今後は、障害物が撤去されて、草を刈った後に、急傾斜地をがけ崩れから守り、春は新緑と山桜、そして秋にはきれいな紅葉が訪れる人々の目を楽ませることができるように、落葉樹の苗木を植えたいと考えています。

まだ、数年は、夏の下草刈り等の管理作業は続けていかなければなりません。広大な飯高檀林跡の山林の中には、まだまだ手を入れて管理しなければならないと思われる箇所は多くあります。これからも、ボランティアの方々の力をお借りして、山林の保護活動を継続して、匝瑳市の宝である国の重要文化財を擁する飯高檀林跡を後世に守り伝えてゆけたらいいと考えます。

【史跡飯高檀林跡を守る会 会長 熊切 達雄】



急斜面での作業はすごく大変です。何度も足を滑らせては孟宗竹を運び出すボランティアの皆さん。

女子大生も大奮闘



ボランティアに参加して

今回、飯高檀林のボランティアに参加させて頂きました。

竹の運搬ということで簡単だと思っていたが、斜面が急なうえ、竹の中に水が溜まっていた重たく、大変な作業でした。飯高地区保健推進員の方々に作っていただいた昼食が美味しく、力が出ました。

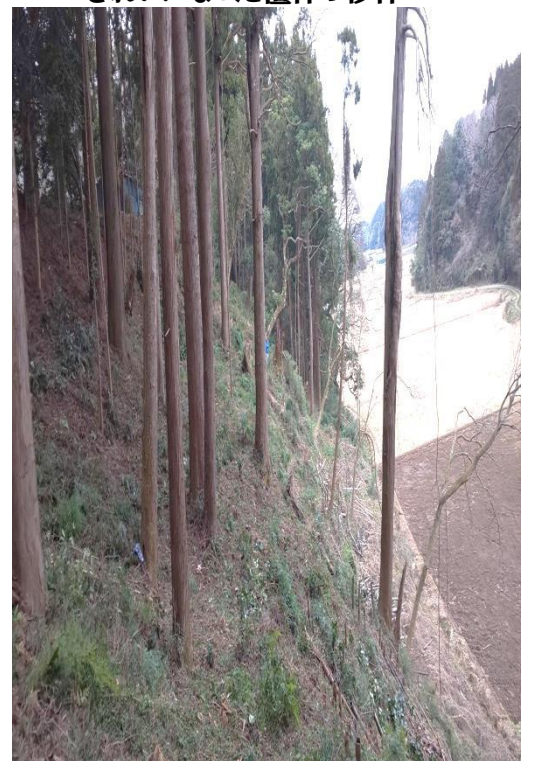
「地元のために」という目的が達成できたと感じることができたため、人のために何かを行うことの素晴らしさを感じ、これからもボランティアをしようと思いました。

匠達高等学校1年 山口 祥司

飯高地区保健推進員の皆さんにより、手作りおにぎりと豚汁が振る舞われました。寒かったので冷え切った体がすごく温まりました。ご馳走様でした。



きれいになった檀林の杉林





津波避難訓練

共興地区を守る会ステップアップ事業に取り組む
 共興地区を守る会は、東日本大震災の経験から組織された自主防災組織であり、以来、地域ぐるみで防災訓練等に取組んでいます。平成二九年度には、市民提案型事業により、共興地区防災計画の策定や防災用資器材の充実を図り、平成三〇年度は、ステップアップ事業として通学路の安全確保や子供たちの見守りを行っています。



こども見守り活動



通学路障害物撤去活動

八日市場小学校子どもまちづくり提案型事業採択される !!



八日市場小学校の八小クリーン&フラワー大作戦が事業採択されました。日頃から匝瑳市の観光名所であり、国の重要文化財である飯高檀林の清掃を行っている。貴校は、今回、新たに、県立旭農業高等学校園芸科の職員や生徒にご協力をいただき、プランターにパンジーなどを植え八日市場図書館・公民館、八日市場幼稚園に配り、心が和む、癒される町になるようにと願いながら水かけ等の作業を行っています。

そ 創意と工夫で

う 生み出す

さ 支え合う協働のまちづくり



市民参画・協働が求められる背景

これまでのまちづくりは、行政があらゆる公共サービスを担い、市民サービスの受け手という形で展開してきました。

しかし、地方分権が進展する中、魅力あふれるまちを築くためには、地域の特性を生かしたまちづくりや地域を知り、地域に愛着を持つ市民によるまちづくりが求められています。

また、市民ニーズや価値観の多様化、複雑化が進む中、行政だけでは地域の課題にきめ細かく対応することが困難になってきました。

一方、市民による社会貢献活動への参加意欲が高まり、市民の間にも、地域の様々な課題を自発的な取り組みによって解決していこうという機運が広がりつつあります。

地域の主体性が求められる分権型社会では、市民、NPO、市民活動団体、事業者など多様な人々が主役となって、知恵と能力を合わせて、住みよいまちを実現することが求められています。

市民協働他市の事例

【鳴門市 道路アドプト事業】

住みよいまちづくりのために、社会基盤となる道路の環境整備を進めることは、市と地域の共通課題です。

全ての市道の状況を把握し、適切に維持管理を行うことは、行政だけでは難しいことから、市民のみなさんと協働が全国各地で行われています。鳴門市では、平成21年1月より「鳴門市道路アドプト事業」を実施し市民の皆さんと共に市道の環境整備を行っており、現在、鳴門市が管理する道路（市道）は市内全体で2,490路線（総延長587km）あります。（4月1日現在）

道路アドプト事業とは、市道において地元の事業者や市民の皆さんが空き缶やごみ拾い、草刈りや側溝の土などの除去作業を行うボランティア活動です。誰もが簡単に参加できることからボランティアを始めるきっかけになるとともに、集まったごみなどを行政が処理することから、地域をきれいにする「協働」の取り組みとして注目されています。

市民活動サポートセンターからお知らせ

・「平成31年度市民提案型事業」を募集しております。

この事業は、皆さんが持つ“知恵”と“力”を生かして地域の課題解決を図るもので、応募のあった優れた提案に対し、費用の一部を助成します。

市民活動サポートセンターでお待ちしております！

・市民活動サポートセンターは、市民活動団体、ボランティア団体、NPO、区など「まちづくり」に関わるすべての人が使用できる場所です。市民の皆様のご利用をお待ちしております。担当 伊藤 ☎ 0479-73-0088 内線 2179